

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

技術情報第5号

イチゴうどんこ病の発生について

イチゴうどんこ病の発生が平年より多くなっています。本年の夏は冷夏、長雨であったので、罹病苗の持ち込みが多かったと考えられます。また、向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並か多く、今後も多発が予想されます。

多発すると防除が困難になるので、薬剤の予防散布を徹底してください。また、ハウスをこまめに換気するなど、発病しにくい環境づくりに努めましょう。

1 対象作物名：イチゴ

2 病虫害名：うどんこ病

3 発生状況

- (1) 定植直後の9月5半旬調査の結果では、発病株率は平年・前年よりやや高かった。
 - ・発病株率 **0.6%** (前年 0.1%、平年 0.04%)
 - ・発病ほ場率 **14.3%** (前年 5%、平年 1.6%)
- (2) 12月3半旬調査の結果では、全調査地点の平均発病株率は、平年・前年より高い1.7%であり、発病株率10%以上の調査地点も見られた。
 - ・発病株率 **1.7%** (前年 0%、平年 0.6%)
 - ・発病ほ場率 **16.7%** (前年 0%、平年 10.1%)
- (3) 調査地点以外でも、例年に比べ、発生が多く確認されている。

4 防除上注意すべき事項

- (1)ハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。
- (2)罹病葉や罹病果の早期発見に努め、見つけ次第速やかに除去する。
- (3)古葉かぎで罹病葉を除去した後、薬液が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。
- (4)同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- (5)被害の拡大を防ぐため、薬剤散布と併せて硫黄粒剤のくん煙処理を行う。なお、薬害を生じないように、処理時間には十分注意する。



葉裏での病徴



果実での病徴